

# 平成31年度の管理運営状況(夢の島公園アーチェリー場)

指定管理者:株式会社日比谷アメニス

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	芝生管理に於いて東京2020大会を控え当初計画した芝刈作業に加えて、年間15回の手抜き除草を実施し、芝生の品質向上と的確な維持を目指した。 埋立地であるためアーチェリー場内で一部不等沈下が発生し水が溜まることと、全日本アーチェリー連盟より車いす等の走行に支障を来すとの意見を頂き、東京都と協議し、補修工事を実施した。また、テストイベントの会場設営の際にも、機材搬入車両による轍が発生したため、東京都及び組織委員会と協議の上、迅速に補修工事を実施した。今後の設営方法については関係者を交え検討する。
		施設の清掃(清潔さ) 施設の警備	休憩施設の雨樋に鳥が営巣したり、強い風雨により落ち葉や泥等が頻繁に溜まるため、日々目視点検を実施するとともに、適宜清掃を実施し詰まり等の防止に努めた。また、日々アーチェリー場内の巡回点検と清掃を実施し、異常を発見した場合は速やかに対応し、施設の適切な維持に努めた。 利用者、各業者への鍵の貸し出しに際しては「鍵貸し出し管理表」に記載し貸出先、貸し出した鍵の種類本数を管理し、鍵の盗難に備えた。鍵の保管に関してもキーBOXを設置し施錠管理を行い、紛失防止に努めた。
		人員配置	アーチェリー場は、東京都建設局管轄の夢の島公園内に設置された施設であり、同じ指定管理者で管理運営を実施しており、アーチェリー場の業務においても連携して対応することにより、管理水準の向上、人件費をはじめとした経費の削減を実施した。
		施設の提供について	管理運営基準に則り、優先受付を実施した。アーチェリー競技での貸し出しについては、高度な技術を要する競技であるため、管理運営基準を定め、全日本アーチェリー連盟または東京都アーチェリー協会が認めた団体以外への貸し出しは行わないこととしている。 東京2020大会を控え、施設の提供は大会組織委員会、全日本アーチェリー連盟、東京都アーチェリー協会等のアーチェリー競技での利用に限り、アーチェリー競技以外の貸し出しは行わず会場の良好な維持に努めている。また特定の条件を満たした監視員を配置することを条件としている。
	法令等の遵守	個人情報保護の取組	東京都建設局の夢の島公園・夢の島熱帯植物館と連携し「個人情報保護」に関する研修を実施するとともに個人情報保護マニュアルを策定し個人情報の保護に努めた。
		環境配慮への取組	アーチェリー場内植栽管理においては、手抜き除草、捕獲による害虫駆除を基本とし、極力薬剤散布を実施しないようにした。
		都への報告・連絡	台風等の気象災害の恐れがある場合は、夢の島公園と連携し待機体制を取り万が一に備え、災害等が発生した場合は速やかに東京都担当者に報告連絡を行うようにした。その他、事件事故に関しても速やかに東京担当者へ連絡するようにした。
	安全性の確保	施設・設備の安全性の確保	日常巡回点検において、不審者の侵入、危険物の有無、施設・設備の異常、施錠の状況を確認し安全性の確保に努めた。年末年始には警備業者による夢の島公園全体の巡回警備を実施し、アーチェリー場内も対象とした。 台風等で倒木等の被害があった場合は、応急処置として倒木の撤去、立入禁止処置等の対策を講じ、安全を確保した後、本復旧に関する協議を東京都と行い、迅速に対応した。
		防災への配慮・緊急時対策	夢の島公園・夢の島熱帯植物館と連携し避難訓練を実施した。
		事故への対応	今年度事故は発生していないため事故報告の記録は特になし。事故発生時には緊急連絡網に則り迅速に報告することとしている。 管理者の過失による事故に備え施設賠償責任保険へは加入している。
	事業効果	利用状況	今年度は、アーチェリー場オープニング記念大会・REDYSTEDDY TOKYOアーチェリー(以上大会組織委員会)、全ナショナルチーム強化合宿兼試合・全ナショナルチーム選考試合・関東高校選抜大会(以上全日本アーチェリー連盟)等の利用があった。(全22日間)
		サービス向上に向けた取り組み	東京2020大会に向けた整備、テストイベント成功に向けた組織委員会、東京都との連絡調整、大会に向けた整備工事の工程確認、園内利用者の安全確保に留意し、無事テストイベントが開催され、また工事による工程確認や利用者導線の確保を協議の上実施し、第三者災害には至っていない。 国内外の取材対応や視察対応を行い、アーチェリー場の認知向上に繋がった。(取材4件、視察多数)
		その他	東京2020大会に向け夢の島公園内各所で実施された整備、改修工事において、オリンピック・パラリンピック準備局、大会組織委員会、建設局、各施工業者と定期的に協議を実施し、アーチェリー会場内のみならず、会場までの安全な動線の確保と利用者への案内を確実に実施し、アーチェリー場利用者だけでなく公園施設利用者の安全確保に努め、事故災害を防止した。 オリンピック延期による不確定要素も多く情報を収集している段階だが、今後以下のように取り組んでいきたい。 ①利用者アンケートを積極的に実施し、ニーズを把握し、利用者視点にたった施設・運営の改善、新たな利用方法の開拓を図り、利用頻度、利用者数の向上を目指す。 ②会場リーフレットを、有効に活用しアーチェリー以外のイベント会社等へのアプローチを積極的に展開し、新たな利用者開拓の足がかりとする。 ③アーチェリー大会以外での利用機会増を目指し、安価でフレキシブルに利用できるよう、部分貸し出しのピーアールも積極的にやっていく。

## 〔作成上の注意事項〕

- ・挙げていただく項目数に制限はありませんが、A4で1枚に収まるようご作成ください。
- ・ご提出いただいたプレゼンテーション資料は、評価委員会の会議資料として、後日、オリンピック・パラリンピック準備局のHPに掲載します。